

KSKQ

ゆうとおん通信

NO.111	2019年1月号	郵便振り込み口座 00910-9-106532
編集人 (社福) ゆうとおん ゆうとおん編集委員会 八尾市久宝園 2-30-4		

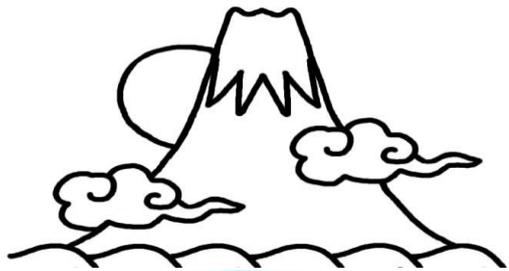


去年は、たいへんお世話になりました。
 今年も、ゆうとおんを
 どうぞ よろしく願っています。

2019年 元旦



2018. ゆうとおん祭 & 演劇発表「西遊記」



2018. 一泊旅行 in 伊勢・志摩

一九九二年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価50円

目次

- ・新春拡大「ここで生きる」 宮野 武・大沢 麻美・谷口 圭一・寺田 直加 (2)
- ・新年の「抱負」 岩中 尚子・松田 健太・木谷 美和子・阪上 明里・中谷 将法・土橋 恵子 (6)
- ・当世作業所事情No.73 畑 健次郎 (10)
- ・ピープルフェース大会 in 奈良報告 (12)

新春

ここで生きる

No.9



つよ おも
いまは、だいぶ強くなったと思う

宮野 武 (みやの・たけし)

三重県生まれ。羽曳野市の小中学校を卒業し藤井寺特別支援学校へ。卒業後は一般就労。2007年からゆうとおんで働く。36歳。八尾市在住。

高等部を出てから高齢者のデイサービス施設で働いた。ぼくの仕事は、お茶をだしたりレクの盛り上げ役をしたり、お風呂の誘導係、それから階段のそうじ。

6年くらい働いてから「やめて下さい」といわれて、「経営がきびしい。新聞代や他にもいろんな支払いがあつて、宮野さんやめてもらえないですか」といわれ、ぼくは気が弱いから反撃できなくて「はい」といった。

「施設から呼び出しくらったけど心当たりある？」とお母さんが聞いてきて、後でわかつたんやけど、お母さんへの説明はぼくの時と違つていた。ぼくがやめる1年前から3人いっぺんにやめたりして、なんでかなと思つていた。注意されたこともいっぱいあるし、ぼくをかばつてくれる人もいた。いい経験だつたと思う。

正社員だつたから、ゆうとおんに来たとき、こんだけ働いて給料これだけ？って初めショックだつた。でも友だちがいっぱいできまし、さおり、販売、厨房、喫茶など色々な仕事できて、ここはいいなと思うようになった。一回か二回、やめたいと思つたこともある。

友だち関係が原因。気が弱いと分かるとめちやめちや悪く言う人がいても嫌になつた。ぼくグループホームで生活しているけど、近くに病院あるしアリオに映画館あるし、レンタルビデオもあるし、お母さんが「こんないいところないよ」とって反対した。言われたら確かにそやなつて思つて。いまはだいぶ強くなつたと自分で思う。お母さんは家から自立することが大事という方針やつたから就労してゆうとおんのホームで暮らすようになった。仕事をやめてからは昼間もゆうとおん。いまはこれで良かったと思つてる。

話は変わるけど、この前フリースペースの「ありあらず」で『きみの名は』の上映会を企画した。職員に手伝つてもらつたけど見に来てくれた人がいて、すごくうれしかった。この映画、ぼく映画館で15回くらい見てるから。第2弾は『安室奈美恵のファイナルコンサート』をやるうという話もある。当事者活動の「みんなできめる会」やピープルファーストの活動もこれから頑張つてやりたい。



パンを作ってみたかった

大沢 麻美 (おおさわ・あさみ)

京都府舞鶴市生まれ。舞鶴特別支援学校の小中高
等部を卒業。その後八尾市に転入。2018年4月か
らゆうとおんで働く。19歳。

部活は卓球バレー部で、わたしはキャプテンをしていました。スポーツが大好きです。高等部での一番の楽しみは運動会と文化祭。卒業してからは、卒業生として見に行きました。友だちとは今も付き合っていて、USJにいっしょに遊びにいきました。わたしは3歳から15年間、舞鶴学園というところで生活していましたが、学園で日韓交流があったり、韓国から5人来たんですが、スマホの翻訳アプリを使っておしゃべりして、すぐたのしかったです。模擬店があって、きゅうりの一本漬け、たこやき、からあげがありました。たこやき、やいてみたかったな。

卒業して3月、ゆうとおんに来るとき、学園の副理事長先生が来てくれて、わたしのことを、責任感が強くて、姉御肌で後輩を助けていたとか、学園でも片付けやそうじをがんばっていたし、洗い物もしてくれていたとほめてくれました。でも、たまにさぼって、自分の部屋を散らかしていたことがあります。学園は土日の門限が6時でルールがきびしくて、怒られたこともあります。

ゆうとおんに来たら、パンが作れるからよかったです。作ってみたかったから。いまパン工房で生地をまるめたり切ったり、成型したり、メロンパンのビスケット生地を丸め平らにしてパン生地にのせたり、色々やっています。一番好きなのはおからクッキーを作ることです。楽しいから集中してやっています。好きな人がいます。だれかって？ 言えませんが！（笑）

おやつを作るのが好きで休みの日はクッキーやガトーショコラを一人で作ってお兄ちゃんにあげたりしていました。

【聞き手 中谷 将法】
大沢さんのすごいところは、手先が器用で柔軟性があって仕事に対してすごくまじめなところですね。覚えがよくて吸収が早いので仕事も次々こなせます。特に言うことはなくて、パート職員とチームを組んでやってもらっています。人気者でメンバーと仲も良く、人と接するのがうまいと思います。パン工房になくはない人です。

ゆうとおんに来たら、パンが作れるからよかったです。作ってみたかったから。いまパン工房で生地をまるめたり切ったり、成型したり、メロンパンのビスケット生地を丸め平らにしてパン生地にのせたり、色々やっています。一番好きなのはおからクッキーを作ることです。楽しいから集中してやっています。好きな人がいます。だれかって？ 言えませんが！（笑）



ぼく しゅみ たび 僕の趣味は、ひとり旅

谷口 圭一 (たにぐち・けいいち)

おおさかし う ひがしおおさかし こうくく しょうちゅうがっこう
大阪市生まれ。東大阪市の校区の小中学校を
そつぎょうご ながり ハビリセンターをへ はたら
卒業後、長居リハビリセンターを経て働きながら
おおさかふりつちもだにこうこうつうしんせい かよ こうじょう ねん
大阪府立桃谷高校通信制に通う。メッキ工場で10年
はたら のち
働いた後ゆとのおんに。45歳。八尾市在住。

■毎年ひとりで旅行に行かれています。が今まで
どんなところへ?

「2017年4月12日〜15日北海道札幌線、
富良野線、宗谷線。2018年4月13日〜14日
静岡伊豆箱根鉄道、駿豆線。11月2日近江鉄道。
樽見鉄道。岐阜」

■ホテルの予約やチケットはどうやって?

「近畿日本ツーリスト。自由席特急券、京橋で
買う」

■時間は自分で調べるのですか?

「JR時刻表こうてきた。旅行の時間しらべる。
新幹線で岡山香川行く。津山線。高松琴平電鉄」

■泊まる所はどうやって見つけるのですか?

「奈良県ホテルサンルート奈良、兵庫県神戸サ
ンプラザホテル」

■お金はいくら持っていますか?

「60000円」

■旅行先で困ったことは? 「ない」

■旅行先ではなにを食べるのですか?

「ケンタッキーフライドチキン、マクドナルド、
王将」

■おみやげは買いますか?

「作業所、ホーム、畑さん」

■旅行先ではなにをするのですか?

「写真とる。携帯カメラ。(帰ったら) 写真屋さ
ん持って行く。岩田写真屋さん。東大阪市。写真
買いに行く。アルバムにはる。ホームにある」

■電車を写すのですか?

「えちぜん鉄道、七尾線」

■鉄道雑誌を買いますか?

「『鉄道ファン』鉄道模型趣味。カトーカタログ」

■行きたいところは雑誌で見つけるのですか?

「津山線、高松琴平電鉄」

■これから行きたいところはどこですか?

「北陸。サンダーバード。北陸ユアーズホテル。
ホテルルートイン金沢駅前。2019年4月11
日〜13日行く。えちぜん鉄道、七尾線。ひとり
で行く。岡山四国、来年+2021年行く。ロー
カル線津山線。高松琴平電鉄。」

【聞き手 福井志朗】

質問用紙に記入して頂きながら話を伺いま
した。ケンタッキーフライドチキンを食べながら一人旅を満喫す
る谷口さんの姿が見えてくるようでした!



仕事が楽しいです！

寺田 直加（てらだ・なおか）

おおさかふひがしおおさかしゅうまれ こうくう しょうがっこう そつぎょうご ちゅうがく
 大阪府東大阪市生まれ。校区の小学校を卒業後中学
 ひがしおおさかたくへつしえんがっこう こうとうぶじだい じっしゅう
 から東大阪特別支援学校へ。高等部時代の実習がきつ
 かけで卒業後ゆうとおんに。20歳。東大阪市在住。

学校を卒業して2年です。ゆうとおんでやっ
 ている仕事は「かりんとう」を作ることです。
 「かりんとう」は、こねるところからやってい
 て、けつこう力がいります。200gから始め
 ていまは400gに挑戦中です。のぼして切
 って、のぼして切つてのくりかえしです。脚の
 リハビリもかねて作業は立ってやっています。
 私の仕事は、週3回が「かりんとう」、2回が
 「さをり織り」です。月に一回、高校の食堂で
 販売しているコロツケも作ります。

卒業した学校に、ゆうとおんのクッキーやか
 りんとう、パンの販売で行って大うけしたこと
 あるんです。前もって友だちと「服装どうす
 る？」って相談して、当日わざと家から在学中
 の体操服で行ったんです。それが先生たちに大
 うけして、それで、かりんとうやクッキーもす
 ごく売れて、うれしかったです。お給料は、
 もらったらすぐハサミで開けて中身を確認しま
 す。ガイドで外出したときに使っていますけ
 ど、足りなくなったらお母さんに借りておつり
 は返します。借りたぶん？ それは返しません
 (笑)。

わたし、高等部で生徒会の書記をしていまし
 た。高校時代の思い出ですか？ やっぱり3年の
 修学旅行かな。行先はデイズニールランドと東京
 スカイツリーでしたが、天気が悪くて、せっかく
 写真をとったのに、なに？これ！状態。だから、
 いつか旅行して、もう一回スカイツリーに行きた
 いです。

ゆうとおんに来て楽しいです。

仕事が楽しいし、メンバーさんや職員といろい
 ろ話ができる場所も楽しいです。「さをり」は
 好きな糸を自分で選べるし、難しいところも
 職員と一緒にだたらやれます。この前、お母さ
 んが「さをり」を買って私の服と水筒入れを作っ
 てくれました！すごくうれしかったです。

【聞き手 中谷 恵子】

寺田さんはすぐくまじめで頑張る人です。

あまりに頑張りすぎて本番でダウンすることが
 あるくらいです。でも2年目の今年は体力、気力
 ともにパワーアップ。これからは楽しみな若手
 期待の星です。



新年の抱負

子どもだったころ、新年という響きには
今日から真つさらなページが始まる
そんなうれしさがありました

新年といえば、「抱負」

負けるを抱くと書いて「抱負」

おやっ？なんで「負」がついているのだろう

おもわず辞書をひきました

そうか、「負ける」ではなく「負う」だったのか

でも

負けるを抱く、こちらが悪くはない

それどころか、なかなか意味が深い

大人時代を根っこで支えているのは

「負」の字にまつわる思いや体験の数々

漢方薬のようにじわじわ効いて

そこから「抱負」が生まれてくるような…

2019年の始まり

さて、みなさんは

どんな「抱負」や思いをお持ちでしょうか

●息子の一言にはっとして

仕事をしていると、メンバーさんのこと、職員同士のこと、右にも左にも進めなくなり、行き詰まったと思うことが多々あります。それは違う！と感じる時の気持ちは、全て私の価値観で判断されていて、今迄の私は答えを出そうと必死になっていました。答えが出れば、こちらの気持ちが随分と軽くなるからだと思います。でもこの頃は、本当の答えはあるものではないんだなと、考えるようになりました。

そう強く思い始めたのは、息子との会話がきっかけです。息子と学校での話をしていた時のこと。私はいつものように人生の先輩として、「それは〇〇なんちゃう？」「△△やわ！」と、私が思う“普通”の意見を言っていたつもりだったのですが、息子が怒りだし、「母さんに何が分かるん？本人違うんやから、本当の気持ちなんか分かる訳ないやん！母さんは福祉の仕事をしてるんやろ？そんなんではあかんやん！」と、言ったのです。返す言葉がありませんでした。

一つ一つの言葉や行動にある本当の意味は、その本人にしか分からない…他人には分からなくて当たり前なんだと、気付かされました。人と接する時、理解出来たような気持ちにならず、立ち止まって多くの人の意見を聞いたり考えたりしていくこと、価値観の押し売りをしないこと。2019年は、その気持ちを忘れずに仕事をしていきたいと思っています。

(ほーぷ・岩中 尚子)

●行き詰まったら、大きなことを考える

みなさん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

昨年はどんな一年だったのか、そして今年はどうな一年にしたいのか。立ち止まってゆっくり考える余裕がないまま一年が過ぎ、また今年もそうして一年が過ぎていくのかなと思っています。ある人にとっては、大きな飛躍となる一年になるかもしれないし、ある人にとっては失意の一年になるのかもしれませんが。僕も多分、みなさんと同じように、良い事も悪いことも繰り返しながらここまでやってきました。何か物事に行き詰まった時には、自分が体験した事のないような、大きなことを考えるようにしています。例えば、今世界中で起こっていること。国と国、民族と民族の争いに翻弄される人たち。

避けようのない災害や、歓喜と悲劇のコントラスト。自由と自己責任論。賞賛や礼賛に向けられた嫉妬など。それらは、自分の存在がどれだけ小さいかということを見せてくれて、少し気が楽になります。目まぐるしく目の前に積まれていく、すべきこと。途切れることがないよう、今年も継続して続けていけたらなと思っています。

(相談支援・のびやか・松田 健太)



●ホッとできる食事

昨年の5月からグループホームの世話人として働かせて頂いています。暑い夏を越し、いつの間にか冬になり早くも半年が過ぎました。主に夜の仕事で月曜に宿直に入ると気がつけば金曜になっていて一週間がとても早く感じます。昼間はゆっくり出来るので家事や親の介護も出来て充実した毎日を送っています。

そんな中、久しぶりに NHK 連続ドラマを観るようになり今回の『まんぷく』は特にはまっています。インスタントラーメンを生み出した安藤百福（ももふく）さんの物語です。先日ドラマのセリフの中で、「一番手っ取り早い幸せは美味しい物を食べること」と安藤さくらさん扮する福ちゃんが満面の笑みで言うておられるのを観て、食べることが大好きな私は大ききうなずきました。

日本には四季があり、その季節に出てくる野菜や果物、海のもの、山のもの、料理の仕方によって多種多様に楽しめます。グループホームの食事作りに入り、もともと料理の好きな私にとって更に勉強になることばかりです。ゆうとおんの美味しいダシ、美味しい味噌、しょうゆ、米油、オリーブオイル等々、調味料や素材でこんなに違うのかと…。10人の利用者さんが残さずきれいに全部食べられ「おいしかったよ！」と声をかけてくれはる時が嬉しく、働きがいがあります。美味しいもんを美味しく食べる！笑顔になる！ホッとする！そんなグループホームをモットーに、これからも皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

(わらゆん・世話人 木谷 美和子)

●私の目標

新年明けましておめでとうございます。

うえーぶの紙すき班として働いている阪上です。今年の目標は4つあります。

1つ目は、体調管理をしっかり行うことです。去年は風邪をたくさん引いて 休みがちだったので健康第一で働きたいと思っています。2つ目は、新しい趣味を見つけることです。今まで趣味というものがなく 趣味が見つかったと思っても3日で飽きることが多いので、もっと身近で自身の引出しを増やせるような趣味を探したいと思います。現在考えている新しい趣味は、仕事で厨房に入ることがあり 料理が全くできないので普段から料理を練習していきたいと思っています。3つ目は、親孝行です。私自身今年で社会人になって3年目になるので 22年間女手一つで育ててくれた母に旅行をプレゼントする企画を考えています。実現できるように仕事を頑張っていきたいと思っています。4つ目は、資格の勉強を頑張ることです。現在ガイドヘルパーの勉強を頑張っている最中です。理由は、ヘルパー不足でガイドに行けない メンバーさんが多くいると伺ったのが資格を取得する発端です。資格を取得して、メンバーさんと楽しい思い出を作りたいと思っています。これからも、ゆうとおんに貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

(うえーぶ・阪上 明里)



●今年の抱負と振り返り

今年でパン工房に勤めて5年目になる。思えばこの5年でいろんなことがあった。最初の1年は、ずっとパン工房にいた師匠が翌年には異動と聞いていたので、とにかくパン作りを覚えなれないといけないと思い、毎日が必死だった。2年目からは師匠もそうだが、ながくパン工房で働いていたメンバーさんも何名か異動になり、少ない人数でパン作りをしなければいけない状況になった。そんな中でも、売り上げをあげるため、工賃をあげるためとみんなで仕事をし、今まで頑張ってきた。

今では、パン工房に新しいメンバーさんも入ってきてくれたり、塩パンやメロンパンなど、新しいパンを開発したりと、忙しいながらもみんなで相談し、時には冗談も言いあいながら頑張って作ることができていると思う。本当に、パンで働いているみんなには感謝してもしきれない。これからも、1日1日を大切に、みんなと協力しあいながら、頑張っていけたらと思う。そして、いま新しく、生食パンを開発しています。また、商品化し次第、皆様にお知らせいたしますので、よろしくお願ひいたします！

(はーと・中谷 将法)

●いろんな「生きてるだけ」、いっぱい

「長く生きすぎたなあ。今までわるいことなんにもしてない」と、車いすの老人が呟く映像がテレビから流れる。特別養護老人ホームは満杯状態、有料老人ホームは高くして利用できない。その受け皿としてサービス付き高齢者住宅が多く出来ているが、身体をうごかすことができる要介護認定が低く、認知症の高齢者は、手が掛かるのに介護報酬が少ない、運営が成り立たないと敬遠される現状があるという。

ゆうとおんがスタートした、作業所という囲いを超えて何ができるかと考えていたころ、「富山方式」と呼ばれる活動の場を見たくて、富山県まで行ったことがありました。二階建ての一軒家、一階のリビングには、赤ちゃんをひざの上に抱いてにこにこ顔のお年寄り、ダウン症の男の子、その横のカーテンで仕切られたベッドではチューブから栄養を入れている女の子、これが誰もが住み慣れた地域の中で、いっしょに暮らしていく「富山方式」なのかと思いました。その片隅で、物静かに座り込む男性の、着ているTシャツに印刷してある顔と文字が目にとまりました。似顔絵の横に「生きてるだけ」。精神を患う彼が描いて作ったTシャツだということでした。それでいいのだ。生きてるだけ。

私も死をどのように迎えるのかという終活を考える歳になっている。そろそろ考えなくてはと思う一方、あまり終活、終活と言われると、まわりに迷惑をかけず亡くなりなさい、今、流行りの「自己責任」を押し付けられているようで嫌になることがある。

介護制度と障害者の制度を利用する富山方式のグループホーム、そこに若い人も入れてのシェアハウスのようなグループホーム、そこを利用する認知症の私は、言いたい放題、やりたい放題、楽しく死を迎えるという終活プランはどうでしょう。生きてるだけ、いろんな生きてるだけがいっぱいのありありす。なんでもありのありありす。今年のありありすは、大好きな木村充揮のライブで盛り上がりたと思います。ブルース最高！

(ありありす・土橋 恵子)



● 当世作業所事情 73

ことばで橋は架かるのか

畑 健次郎

『炎を越えて』という本がKくんから届きました。著者は杉原美津子さん。

1980年、新宿西口で停車中のバスが放火されるという事件がありました。杉原さんはその被害者の一人です。全身の80%に熱傷を負いますが、奇跡的に生還します。そして3年後、はじめての著作となる『生きてみたい、もう一度』を出します。

加害者のMさんは当時、ホームレス状態でした。後に裁判の中で軽度の知的障害と判断されました。

「いかにも純朴な田舎の人」というのが、Mさんの担当弁護士が彼から受けた印象です。

杉原さんはMさんあての便りで「私はあなたの事をうらんだり、にくんだりしていません」と伝えます。

一時期、Kくんたちと獄中の人権問題を考える集いを持っていました。

杉原さんの話を直に聞いてみたくて、連絡を取りました。先方からしたら何者かも分からないのに、来ていただけることになりました。落ち着いたきっぱりした人という印象が残っています。

それからとうに30年は過ぎました。『炎を越えて』は彼女の9冊目の本ということになります。2014年に亡くなった杉原さんの最後のメッセージです。

相模原の事件は彼女が亡くなってからですが、19人の死者たちと家族の関係を言い当てているような文章にも出あいます。『取材先の』ほとんどの家族がその子どもを時には「天使」と呼びながらも――人の目を恐れて実名で出ることを拒んだ。彼らのその心情が「被害者」となって「蔑み」の眼差しを嫌というほど浴びてきた私の体験と重なった――障害者に向けて人々の眼差しには、今も人々の感情から「差別」を否定することはできない――社会に子を託していくだけの信頼を確信できない』しかし、と彼女はつづけます。

「守るべきものは、人々から注がれる眼の色ではなく、その子の自由と尊厳ではないのか。伝えなければ届かない。伝えられなくては思いやることのできない。言葉を使っはじめて橋は架かる」

ある時、Sさんという人の母親から「(娘を)ゆうとおんに入れてくれないか」という打診がありました。条件が一つついていました。

当時、ゆうとおんは毎日のように、近鉄八尾駅前に出かけていました。駅前のスペースでのクッキー販売は、多くのメンバーにとって、好きな仕事のひとつでした。お母さんの条件は「クッキー販売に連れて行くのはやめてほしい」というものでした。そんなこと(駅前でのクッキー販売)をすると、Sは障害者ですと宣伝しているようなものだと仰うのです。Sさんのお母さんには、クッキー販売に行かないという約束はできないと伝えました。結局、Sさんはゆうとおんにやってきませんでした。それはそれでいいのですが、もう少しことばのやり取りをしておいた方がよかったのか10など、振り返ってみて思います。

さて、前回お伝えした職員の行動指針を作るための策定委員会がスタートしました。自薦、他薦で各部署から出てきた策定委員はそれぞれのやり方で、みんなの声を持ち寄りしました。討議のたたき台の一つになればと思っ、指針の簡単なサンプルも提示しました。予想通りの反応と予想外の反応に出会いました。

行動指針のサンプルの最後に、「私たちは私でありつづけることのできる私たちを目指します」と付け加えました。予想通り、「これは何を言いたい

のかよくわからない」という反応がありました。いろんな人たちが言ってきたことを少しアレンジしただけなのですが、抽象的だと受けとめられたようです。

私は常々、「私」のない「私たち」はこわいと思つています。どんな仕事もそうだと思いますが、福祉の仕事は私という一人の人でありつづけるという自律した心持ちと、私たちという協同性が必要です。「私」だけでは独りよがりになりがちだし、

「私のない私たち」は大勢順応主義に流されがちです。そして私抜きの私たちは、異質なものの排除に乗り出します。「私たち」という仮装の多数派は正義を振りかざして、「私たち」に与せぬ他者に石を投げつけます。安田純平さんに向けられた自己責任論は、その一例です。

私という一人の個人から見た他者は、すべて異質な人です。すべての人を排除した時、残るのは自分ひとりです。他者を排除すれば自動的に自分自身も排除せざるを得ません。

その点、「私たち」という視点は便利で狡猾です。「私たち」は、たとえば国家という装いをまとう中で同質性を確保します。ひとまず自分の身は国家に守ってもらつて、あるいは国家に同化して、「私たち」は「異質」な他者の排除に向かいます。

「私」でいることは時には孤独で不安です。そこに付け込んで政権を取ったのがナチスです。ワイマル憲法という民主的な憲法の下で、ナチスは

大衆の支持を獲得していききました。

「ファシズムはある日、突然やってくるのではありませぬ。不安や不満を解消するために「私たち」は群れたがりです。そして匿名の戦士となり、「私」では持ちえない攻撃性を獲得します。ファシズムやいじめはそんな私たちの日常の思考様式や行動様式のなかに忍び込んできます。



予想外だったのは、「みんなで作る働く場」と「安心できる居場所」は矛盾するという意見のあつた事です。ゆうとおんは「みんなで作る働く場」としてスタートしました。言い換えれば「だれも排除しない働く場」を目指しました。働くことは義務ではなく、社会につながるための権利だという観点を大事にしたいと思つてきました。働く場という求心力は、安心して居ることのできる場という受容力があつてこそ生きてきます。

そこまではゆうとおんの基本的な視点として理解してもらつていいると思つていました。ウーンと考へさせられました。

働く意欲とさぼれる自由がセットになつていてこそみんなで作る働く場です。職員は労働の持つ義務的な側面を通所メンバーに押し付けるのではなく、通所メンバーが自分もみんなと働きたいと思えるような空間づくりのマジシャンであつて欲しいと夢想します。それにしても、ことばのやりとりのむつかしさを痛感させられます。

12月1日、奈良であったピープルファーストの全国大会にゆうとおんも参加(当事者10人、職員6人)しました。当事者主体のステージは活気がありました。会場を後にして帰るとき、当事者の一人であるTさんが「来て良かった。(当事者のみんなの発言も)分かりやすかった」と感想を述べました。一所懸命のことばは届くのだなと思ひました。単純な私なんか、それだけでうれしくなつてしまします。

バス放火事件という犯罪の加害者であるMさんは、後年、千葉刑務所で自殺します。個別事件の加害者、Mさんは「異物」を排除しようとするこの社会の被害者でもあります。何だかんだと言いながらも、Mさんが生き難かつたこの社会とそれなりに折り合いをつけている私がいいます。

時には周りの空気を読みながら生きてきた自分がいます。時々、自分がいやになります。

ゆうとおん協力会からのお礼と報告

みなさんのご協力で施設建設や、ありありすのフリースペースが実現されてきました。

昨年のナンクルナイサーにつづいて2020年には、自前のグループホームを立ち上げる予定です。

現在、約500万円の協力会費をお預かりしています。建設費の一部に使わせていただきます。よろしくご了承願います。御礼かたがた、報告いたします。

2018年12/1~2 「ピープルファースト大会 in 奈良」に参加してきました



全国各地から約850名が集まりました。
海外からは韓国、スウェーデンの当事者も参加しました。



ゆうとんから16人が参加しました。



熱心に発表を聞く山口さん（中央）と西矢さん（右）



府県別に代表者がプラカードで壇上に。

みんなで新年を祝いましょう！ もちつき大会

1月14日（月）

時間 11:00~
場所 ほーぷ ぜんざい・豚汁など

DVD 上映会

時間 13:30~
場所 ありありす
(ほーぷ 2F)



社会福祉法人 ゆうとん

本部	/ 〒581-0834 八尾市萱振町 2-133	TEL 072-993-0785	FAX 072-993-0784
ゆうとんはーと	/ 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1	TEL 072-926-6200	FAX 072-926-6199
ゆうとんうえーぶ	/ 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4	TEL 072-926-1543	FAX 072-921-8883
ゆうとんほーぷ	/ 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2	TEL 072-927-1300	FAX 072-927-1301
スタコラハウス	/ 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11	TEL 072-995-4387	FAX 072-995-4387
メールアドレス	/ youtone@live.jp ホームページアドレス http://www.eonet.ne.jp/~youtone		
年会費	/ 1口 2,000円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532		

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階
定価 / 50円

一九九一年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価50円